

論 文

両側人工股関節置換術を同時に行った患者の 術後援助についての検討

松田 幸代・坂井美智子・中村 洋子
(金沢大学医学部附属病院)

Evaluation of post operative nursing for the patients
who had bilateral total hip arthroplasty

Yukiyo Matsuda, Michiko Sakai and Yoko Nakamura
Knazawa University Hospital

要 旨

両側人工股関節置換術を同時に行った患者の援助を明確にすることを目的として11事例を検討し、以下の結論を得た。

1. 同一体位(床上安静)による苦痛には、腰痛と両下肢伸展位によるつっぱり感が大部分を占める。腰痛緩和に対しては、ストレッチが有効であるが、術前からその方法を習得できるような指導が必要である。
2. 排泄時の苦痛・不安の緩和にとってヒップアップできることが大切である。そのため術前より術後の肢位でのヒップアップの指導と訓練が効果的である。
3. 術前に車椅子への移乗要領の説明と十分な練習を実施し、さらに上肢筋力強化の訓練を術前と臥床中にも行うことが、術後安静拡大にとって効果的である。
4. 術後のリハビリテーション・ADLの拡大のため、入院前からの栄養指導とリハビリ指導が必要である。